

(21)

氏名(生年月日)	河合裕子
本籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1367号
学位授与の日付	平成5年4月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	拡張型心筋症心不全例に対する心臓移植について一適応の時期および医学的社会的要因の検討一
論文審査委員	(主査) 教授 細田 瑛一 (副査) 教授 小柳 仁, 橋本 葉子

論文内容の要旨

目的

拡張型心筋症(DCM)の心不全死例について心臓移植の臨床的適応時期を明らかにし, 社会心理的要因についても分析した。

対象及び方法

1976年から1990年の14年間に当施設に入院, 難治性心不全にて死亡したDCM 61例を対象とした。これらに対し, (1) 発症時から死亡までの経過をretrospectiveに調査した。(2) 胸部X線所見(CTR), 心電図, 超音波検査の結果と, 心不全を発症するまでの期間との関連を調査した。(3) 死亡前1年以内の心臓移植の可能性の有無について, Pennocksらの基準に基づき, さらに社会的要因を満たしているか否かを検討した。

結果

(1) NYHA3度以上に固定した時期から死亡までの期間は平均8.2カ月であった。自覚症状出現から死亡までの間に心不全を繰り返し, 3回目の心不全で死亡するものが最も多かった。合計3回の心不全を経過した後の生存率は18%と低値であった。(2) 観血的検査結果との関連: 上記の例のうち61%は1年以内に難治性心不全で死亡し, また87%は観血的検査結果を用いて得られるprognostic scoreでも1年以内に死亡する領域に含まれていた。(3) 12カ月以内に心不全を生じた22例のCTRは平均72%に対し, 36カ月以上心不全を生じなかった18例のCTRは平均60%であり, 前者で有意に大であった($p < 0.01$)。心電図, 超音波検査では有意差を認めなかった。(4) 心臓移植に際し求め

られる社会心理的要因を満たす症例は, 7例(11.5%)であった。他の54例は, 年齢51歳以上28例, 高度肝機能障害5例, 精神障害3例, 社会的援助を欠く2例, 高度腎機能障害2例, 精神遅滞1例, 脳梗塞による片マヒ1例, 患者の治療態度不良1例, その他11例であった。

考察

DCMに対する心臓移植は難治性心不全により死亡する極めて予後不良の症例に限られている。自覚症状を含む心不全の状態という一次情報は繰り返し得られる非観血的情報であり, その87%が観血的検査結果を用いたprognostic scoreと同様の結果を示した。

結論

(1) 14年間に, 難治性心不全によって死亡したDCM 61例について心臓移植の適応および要因について検討した。(2) 3度目のNYHA 4度の心不全を起こした例, 治療によってもNYHA 3度以上に固定した例は予後6カ月から1年と予想され, これらの例には心臓移植の対象となる可能性があると考えられた。(3) 心胸比はDCMの病状を把握し, 経過観察を行うのに有用であった。(4) 心臓移植に対し医学的社会的要因を完全に満たす症例は11.5%と比較的少なかった。

論文審査の要旨

拡張型心筋症の心不全は心臓移植の適応として一般的に認められている。適応の基準は内科的診療を十分に行っても6カ月以内に死亡する確率が高い症例で、その根拠とされる指標には心筋生検を含めた侵襲的検査が用いられている。

本論文は重症患者に侵襲的検査を繰り返すことは望ましくないとの観点から、拡張型心筋症の心不全死亡例を中心に、死亡の数カ月前までにどのような事故が起こっているかを検討した。その結果、拡張型心筋症の診断確定後ニューヨーク心臓協会心機能分類IV度の心不全によって3回以上入院治療を要した症例、またはIII度に回復しない症例が1年以内に死亡する確率が高いことを認めた。また社会的要因を含めて適応を検討することによって移植手術の効果を更に高めることができると判断される。本邦でも現実の問題となってきた心臓移植に関して臨床的に直ちに役立つ価値ある研究である。

主論文公表誌

拡張型心筋症心不全例に対する心臓移植について
一適応の時期および医学的社会的要因の検討—
東京女子医科大学雑誌 第62巻 第10号
945-954頁 (平成4年10月25日発行) 河合裕子

副論文公表誌

- 1) 重症心筋症の自然歴と心移植レシピエントの適応について. *Coronary* 3(2):143-149(1986)
関口守衛, 小笠原定雄, 河合裕子, 金子まこと, 広江道昭, 榊原尚豪, 小柳 仁
- 2) 心筋症と心臓移植. *内科* 54(1):113-120(1984)
関口守衛, 小笠原定雄, 森本紳一郎, 木村裕子, 広沢弘七郎, 小柳 仁
- 3) 拡張型心筋症の予後: prognostic index による判定法. *J Cardiogr* 16(Suppl 9):84-89(1986)
小笠原定雄, 関口守衛, 広江道昭, 荷見源成, 河合裕子, 藤田直也, 金子まこと, 広沢弘七郎

- 4) 心臓移植の適応と考えられた拡張型心筋症. 循環器 29(1):91-97(1991)
堀江俊伸, 小笠原定雄, 河合裕子, 岡田澄子, 永田まこと, 荷見源成, 阿部一彦, 西川俊郎, 細田瑛一
- 5) 後下壁心筋梗塞発症4年後に著明な右心不全と難治性不整脈を呈した1例. *心臓* 22(6):674-679(1990)
河合裕子, 川越康博, 酒井吉郎, 雨宮邦子, 楠元雅子, 関口守衛, 木全心一, 広沢弘七郎
- 6) 著明な肺動脈拡張を伴い14年間経過観察し得た原発性肺高血圧症の1例. *心臓* 19(4):439-444(1987)
河合裕子, 松村研二, 雨宮邦子, 小笠原定雄, 川越康博, 中村憲司, 木全心一, 広沢弘七郎